

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年12月8日～2018年12月14日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で横ばいとなりました。カナダ5年国債利回りは上昇しました。

米中貿易摩擦懸念の後退やイタリアの財政赤字目標の引き下げを受け、カナダの通貨、金利は上昇しました。しかし、中国や欧州で低調な経済指標の発表が相次ぎ、世界経済の減速懸念が強まったことやカナダ人が中国当局に拘束されたことなどが投資家心理の重石となり、週末にかけて上昇幅を縮める展開となりました。

経済指標では、カナダの住宅関連指標が発表されました。12/13(現地)に発表された新築住宅価格指数は前年比+0.1%と軟調な結果になっており、2010年1月以来の低水準となっています。

【2】今週の見通し

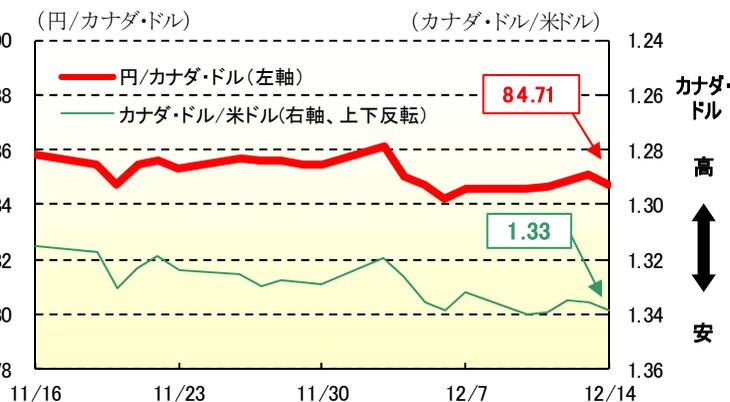
今週は、カナダのCPI(消費者物価指数)、小売売上高の発表が予定されています。カナダのCPIに関しては原油価格の下落を受けて、前回から鈍化すると見込まれています。ただ、コアCPIが堅調な結果になればカナダ銀行(中央銀行)の金融政策への影響は限定的になるとみています。

また、今週は米国でFOMC(米国連邦公開市場委員会)の開催が予定されており、0.25%ポイントの利上げが見込まれています。足元、FRB(米国連邦準備制度理事会)高官が利上げペースの鈍化を示唆する発言をしており、声明でその兆候がみられれば、米国金利の低下圧力が強まり、それにカナダの金利も連れることが予想されます。

原油価格、株式市場に関しては、不安定な動きが依然として続いており、カナダ・ドル、カナダ金利の上昇圧力を抑える要因となりそうです。

【カナダ・ドル 為替推移】

(2018年11月16日～2018年12月14日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】

(2018年11月16日～2018年12月14日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>